

次回の説明会は、7月12日昼

関連資料は

古賀研究室 (C405) のポストに マギル大英語研修



恒例のカナダ・マギル大学英语研修講座の説明会が14日昼、人文学部で開かれた。説明会には、人文学部を筆頭に教育学部、理学部、工学部、農学部から40人を超える学生が集まった。次回の説明会は、7月12日(火)12時過ぎから、人文学部C棟406教室で開催される。

冒頭、シュミット先生が、研修先となるカナダやモントリオール、トロントなどの概要について紹介。訪れる2月~3月は厳寒期で、外気は、マイナス20度以下になることもある。建物の中に入れば快適だが、防寒対策は万全にしてほしいなどの注意があった。



次いで、研修責任者の古賀教授が今年度の研修の概要について説明した。昨年と異なるのは、①3月の帰国の際は、教員による引率がなく、学生が個人個人での帰国となる②帰国する際の路線は、自分が決めて旅行会社に手配する③大学側が徴収するのは、マギル大英語研修とホームステイでの滞在費計35万円だけーなど。

参加希望の学生は、申込金2万円を、10月28日までに指定の常陽銀行口座に振り込む。残りも、翌年の1月8日までにこれも指定口座に振り込むことになる。

日本・モントリオール間の往復航空券の費用は、今年度実績で10万円程度(団体料金)。



ニューヨークなどを経由しての帰国も可能。その場合の航空券は、やや高くなる。経由先のホテルは、旅行会社に依頼すれば、確保できる。

徴収する語学研修と滞在費は、円相場が変わってくる。このため円高となれば、払い戻しをする。円安になれば、追加料金を徴収することになる。

最後にこの2-3月の研修に参加した学生からの講演があり、防寒着や防寒靴の用意のほ



か、旅行先での注意事項に加えて、「訪問前に、英語をしっかり勉強していくように」とのアドバイスがあった。



教員の引率は、長期的には、廃止の方向で、マギル大は、これに備えて日

本人スタッフを雇用し、日本人向けの「おもてなしサイト」を開設し、対応に当たっている。アドレスは、古賀研究室（人文C棟405室）のドアに掲示してあります。ご関心のあ
る学生は、ご覧下さい。日本語でも対応いただけるはずですよ。

今後の説明会は、10月4日（火）昼と10月25日（火）。11月以降の説明会は、研修参
加者だけの対象となります。

（終）

